

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 新たな段階へ
 - FD推進委員会小委員会委員長
 - 文学部教授 佐々木 真
- 2020年度「学生による授業アンケート」(前期) 集計結果分析
 - 経済学部教授 村松 幹二
- 「コロナ禍における試行錯誤」
 - 医療健康科学部准教授 馬込 大貴
- 令和2年度
 - 新規採用教員オリエンテーション
- 平成31(令和元)年度活動報告
- FD推進委員会の今後の活動予定

新たな段階へ

FD推進委員会小委員会委員長
文学部教授 佐々木 真

4月以降、各大学では遠隔授業の嵐が吹き荒れた。本学でも前期はオンライン授業、定期試験も中止となり、大学から学生が消えた。急な決定のなか、FD推進委員会として、十分なサポートができたわけではなかった。これは委員会が教育全般をサポートする実務組織ではないことも原因であるが、今から思えば、もう少し何かできたのではないかと反省している。この状況下で教育活動を支えたのが、教務部や総合情報センター等の事務組織、とりわけボランティア的に活動された教員の方々であり、その活躍でなんとか前期を終了することができた。関係各位にはお礼を申し上げる次第である。

後期授業が始まり、本学でも対面授業が一部導入された。しかし、密を避け、対面授業に出席しない学生の権利を尊重するためには、受講生全員に対面授業を強制することはできない。そのため、現在はハイブリッド授業に注目が集まり、その方法が模索されている。国立情報学研究所(NII)は9月に2回、「遠隔・対面ハイブリッド講義」をテーマとしたシンポジウムを開催した。9月14日の仏教学部FD研修会では、各種機器を使用したハイブリッド授業の実験が行われた。筆者も後期授業では、演習系の4科目でハイブリッド授業(対面と遠隔の同時実施)を実施している。

ハイブリッド授業の問題は、その定義も方法論も確立していないことである。大学教員が多数参加するSNS(たとえば「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」Facebook:登録者約2万人)でもハイブリッド授業の投稿は盛んだが、方法論は確立していない。授業内容や設備、使用機材により多様な方法があり、現在は模索状況だからである。「解答」がない今は、さまざまな取り組みの内容を共有してくしかないだろう。本学でも公開授業(優れた取り組みの提示)や学部等での研修会での知見の公開が重要だと考えている。

対面授業との関連では、遠隔授業のほうが教育効果が高いという意見もあり、このことを実感している方も多いと思う。対面授業実施にたいしては「外圧」もあり、今後はその拡大が予想されるが、コロナ以前の対面授業に戻ればめでたしというわけでもない。逆に、教育効果のみですべてを判断してよいのかという問題もある。コロナの問題は、私たちに「大学とは?その使命は?」という課題を突きつけている。

2020年度「学生による授業アンケート」(前期)の 集計結果—学修量・学修効果の向上

経済学部教授 村松 幹二

2020年度「学生による授業アンケート」(前期)を以下のとおり実施しました。

今年度のアンケート結果の主な特徴

1. 回答率が大幅に増加しました。
2. Q2予習・Q3復習時間が増加しました。
3. Q4「熱心に取り組んでいる」が増加しました。
4. Q5欠席率が減少しました。
5. Q13「教材の見やすさ」が向上しました。
6. Q17「授業内容への興味」が向上しました。

このように、学生の取り組みや、学生の学修効果に関する項目は、向上しました。一方、授業の質に関する項目は、低下も見られ、課題が多いと考えます。

以下では、アンケートの概要、質問項目を見た後、平均値の変化から上記の特徴等を説明し、予習・復習時間と学修効果に関する設問(理解度、興味、目標達成)の関係を分析します。なお、このアンケートだけでは各数値の正確な原因はわかりませんが、参考のために考え得る原因を述べさせていただきます。

【アンケートの概要】

実施期間：令和2年7月10日(金)～23日(木)
対象科目数：1,420科目(昨年度1,381科目)
対象者数：80,117人(延べ人数)(昨年度78,471人)
有効回答数：51,224件(63.9%)(昨年度40,312件(51.4%))

【質問項目】

- Q1.どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数選択可)
- ・シラバスをみて授業内容に興味を持った
 - ・シラバス以外の情報(友人等)により、授業内容に興味を持った
 - ・履修モデル(コース制等)を見て決めた
 - ・資格の取得
 - ・必修科目または選択必修科目だったから
 - ・時間割(曜日時限)を考慮して決めた
 - ・その他

Q2.この授業の正規の授業時間外で予習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。

Q3.この授業の正規の授業時間外で復習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。

(Q2・3選択肢)

- 5：3時間以上～
- 4：2時間以上～3時間未満
- 3：1時間以上～2時間未満
- 2：1時間未満
- 1：全くしていない

Q4.あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。

(Q4の選択肢はQ18の後に記載)

Q5.この授業を何回欠席しましたか。

- 5：0回
- 4：1～3回
- 3：4～6回
- 2：7～9回
- 1：10回以上

Q6.授業はほぼ定刻通りに実施(90分の授業時間、もしくはそれに相当する学習時間の確保)されていますか。

Q7.通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・YeStudy等による課題授業等含む)

Q8.授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。(注)必ず訂正版シラバスを確認してください

Q9.この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。

(Q6～9の選択肢はQ18の後に記載)

Q10.教科書・配付資料(配信教材)等は授業内容を理解するうえで効果的ですか。

- 5：そう思う
- 4：ややそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：ややそう思わない
- 1：そう思わない
- 0：教科書・配付資料(配信教材)等がない授業

Q11.担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。

(Q11 の選択肢は Q18 の後に記載)

Q12.教員の話し方・声のボリュームは聞き取りやすいですか。

- 5 : そう思う
 4 : ややそう思う
 3 : どちらとも言えない
 2 : ややそう思わない
 1 : そう思わない
 0 : 音声を含む配信がない授業

Q13.板書や投影されたスクリーンの文字・図表等 (配信教材) は見やすいですか。

- 5 : そう思う
 4 : ややそう思う
 3 : どちらとも言えない
 2 : ややそう思わない
 1 : そう思わない
 0 : 板書・スクリーンへの投影がない授業

Q14.教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。

(Q14 の選択肢は Q18 の後に記載)

Q15.教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。

- 5 : そう思う
 4 : ややそう思う
 3 : どちらとも言えない
 2 : ややそう思わない
 1 : そう思わない
 0 : あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q16.この科目の授業内容についてよく理解できていますか。

Q17.授業内容に興味を持っていますか。

Q18.あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。

(Q4・6~9・11・14・16~18 選択肢)

- 5 : そう思う
 4 : ややそう思う
 3 : どちらとも言えない
 2 : ややそう思わない
 1 : そう思わない

Q19.教員自由設定設問 (選択)

Q20.教員自由設定設問 (記述)

Q21.この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q22.この授業の改善して欲しい点を具体的に記入してください。

Q23.所属学部学科等

仏教・国文・英米文・地理・日本史学・外国史学・考古学・社会学・社会福祉学・心理・経済・商・現代応用経済・法律 A・法律 B・政治・経営・市場戦略・診療放射線技術科・グローバル・メディア

Q24.学年

4年・3年・2年・1年・その他

Q25.どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。(1つだけ選択してください)

一般入試・大学入試センター試験利用入試・一般推薦入試・自己推薦入試・スポーツ推薦入試・指定校推薦・附属校推薦入試・留学生特別入試・帰国生特別入試・編入学試験・その他の試験・回答しない

※昨年の質問項目に対し、オンライン授業に対応するため Q12 に選択肢「0 : 音声を含む配信がない授業」を追加しています。

学年別平均値

表 1 は、有効回答数のうち履修者数 20 名以上の授業を対象に、アンケート質問項目 (Q2~18) の学年別平均値を示したものです (学年別となっていない科目等履修生 15 名を除く)。また、Q10・12・13・15 において選択肢 0 は、質問内容に該当しないことを示しており、平均値の計算からは除外しています。

表 1 学年別平均値

2020年前期学生による授業アンケート(設問別平均値)															
学年別	1年			2年			3年			4年			小計		
	2020	2019	前年比	2020	2019	前年比	2020	2019	前年比	2020	2019	前年比	2020	2019	前年比
Q2平均値	1.91	1.60	0.32	1.94	1.62	0.32	1.90	1.55	0.34	2.08	1.69	0.39	1.93	1.60	0.34
Q3平均値	2.18	1.67	0.51	2.11	1.66	0.45	2.14	1.65	0.49	2.27	1.77	0.50	2.16	1.67	0.49
Q4平均値	4.24	3.95	0.29	4.21	3.96	0.24	4.19	3.91	0.28	4.21	3.94	0.26	4.22	3.95	0.27
Q5平均値	4.83	4.62	0.20	4.80	4.52	0.28	4.78	4.49	0.28	4.56	4.06	0.51	4.79	4.62	0.16
Q6平均値	4.55	4.64	△ 0.09	4.59	4.70	△ 0.11	4.56	4.68	△ 0.12	4.55	4.69	△ 0.14	4.57	4.64	△ 0.08
Q7平均値	4.74	4.70	0.04	4.70	4.74	△ 0.04	4.69	4.73	△ 0.04	4.66	4.73	△ 0.07	4.71	4.70	0.01
Q8平均値	4.59	4.54	0.04	4.60	4.63	△ 0.03	4.58	4.62	△ 0.04	4.59	4.64	△ 0.05	4.59	4.54	0.05
Q9平均値	4.28	4.19	0.09	4.29	4.30	△ 0.01	4.27	4.30	△ 0.03	4.35	4.38	△ 0.03	4.29	4.19	0.09
Q10平均値	4.38	4.31	0.07	4.35	4.35	0.00	4.28	4.31	△ 0.04	4.38	4.36	0.02	4.35	4.31	0.05
Q11平均値	4.46	4.45	0.01	4.45	4.54	△ 0.09	4.41	4.55	△ 0.14	4.48	4.55	△ 0.07	4.45	4.45	0.00
Q12平均値	4.48	4.38	0.10	4.41	4.49	△ 0.09	4.37	4.48	△ 0.11	4.43	4.50	△ 0.07	4.43	4.38	0.06
Q13平均値	4.45	4.23	0.22	4.40	4.27	0.13	4.37	4.19	0.18	4.42	4.29	0.14	4.42	4.23	0.18
Q14平均値	4.31	4.35	△ 0.04	4.29	4.45	△ 0.16	4.29	4.44	△ 0.16	4.33	4.46	△ 0.12	4.30	4.35	△ 0.05
Q15平均値	4.45	4.36	0.09	4.41	4.49	△ 0.08	4.42	4.48	△ 0.06	4.44	4.47	△ 0.03	4.43	4.36	0.07
Q16平均値	4.03	4.00	0.03	4.11	4.07	0.04	4.05	4.03	0.02	4.20	4.06	0.14	4.07	4.00	0.08
Q17平均値	4.11	3.99	0.12	4.15	4.10	0.04	4.15	4.14	0.01	4.31	4.18	0.13	4.15	3.99	0.15
Q18平均値	3.97	3.95	0.02	4.06	4.03	0.04	4.05	4.02	0.03	4.17	4.10	0.07	4.03	3.95	0.08
有効回答数	20,992	15,283	5,709	15,426	9,853	5,573	8,858	5,629	3,229	4,263	1,937	2,326	49,539	32,702	16,837

【昨年度からの変化】

今年度の授業アンケート（前期）の結果は、前年と比較し、回答率と5段階評価による平均値に大きな変化が見られました。コロナの影響によりオンライン授業期間中にアンケートが行われたことの影響が大きいと推察されます。

1. 回答率の増加

回答率は一昨年 50.5%から昨年 51.4%と増加傾向にありましたが、今年度は 63.9%と大幅に増加しました。アンケートは C-Learning を通じて行われますが、オンライン授業により多くの学生が C-Learning に接する機会が多かったことも一因であると考えられます。

次に、平均値の変化の特徴を学年別平均値及び学年を合計した平均値（表 1 の小計）を用いて、小計が 0.1 以上変化した項目について順に見ていきます。ただし、学年が低いほど回答数が多く、平均値小計には 1 年生の結果が大きく反映されています。

2. 予習・復習時間の増加

1 科目あたりの 1 週間の予習時間が昨年と比較して、0.34 と大幅に増加しています。また復習時間は 0.49

と大幅に増加しています。予習・復習時間を合計すると、おおよそ40分増加していると考えられます¹。これは1つの授業についての質問ですので、仮に8つの授業を履修しているとする、1週間の予習・復習時間が5時間以上増加したことになります。

図1は予習時間、図2は復習時間の変化を見たものです。いずれも「全くしていない」と回答した割合が大幅に減少しており、特に復習時間については半分以下になっています。また予習・復習時間が1時間以上の者が倍増していることが分かります。

その要因は本アンケートからは分かりませんが、授業のオンライン化に伴い課題の量が増加したことや、通学時間がなくなり、部活・サークルやアルバイトに費やす時間も減少したことなどの影響があったのではないかと推測します。今後も各種のアンケート等を通じてその要因を考え、コロナの影響が減少した後も勉強量を維持、増加させる方法を検討する必要があると考えます。

図1 予習時間の変化

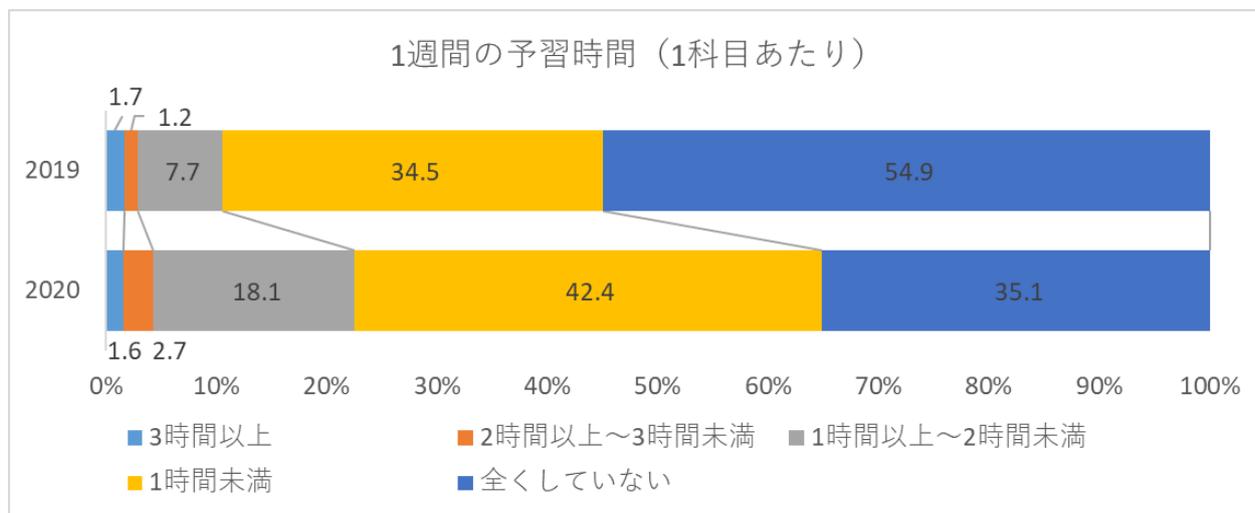
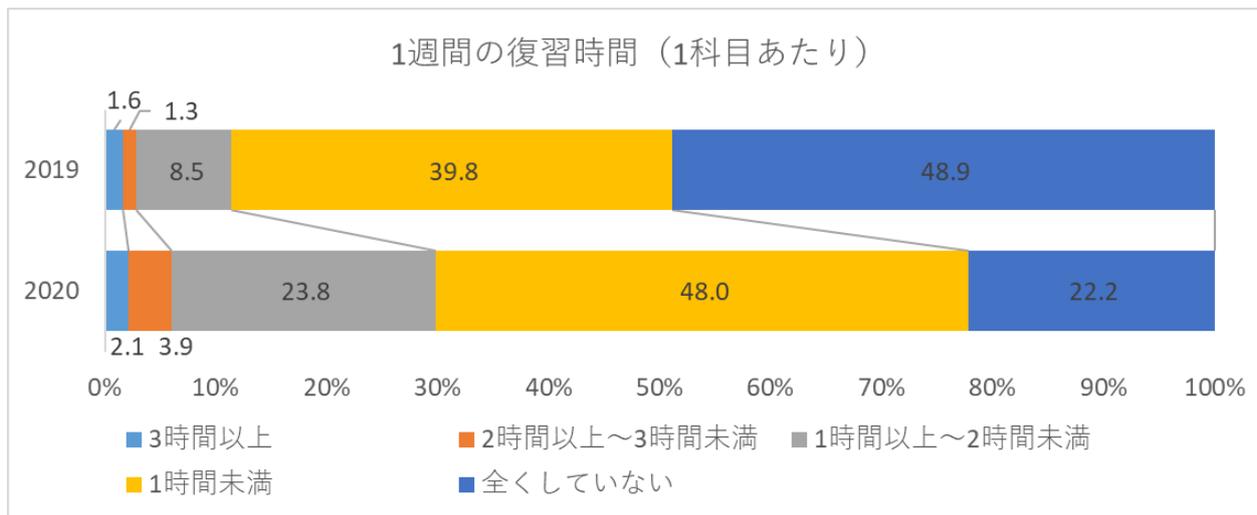


図2 復習時間の変化



¹ 分単位での質問ではないため正確には分かりませんが、仮に「1時間～2時間」と回答した学生と「2時間～3時間」と回答した学生の勉強時間の差が60分だとすると、 $(0.34+0.49) \times 60 = 49.8$ 分、「まったくしていない」と「1時間未満」の差は30分かそれ以下だと考えられます。それを考慮しても40分前後は予習・復習時間の合計が増加したと考えられます。

質問項目ごとの変化の大きさを昨年との平均値の差で見ると、予習時間、復習時間の変化がもっとも大きなものです。また、他の項目は平均値が本年度は 4 を超えているのに対し、予習時間は昨年度の平均 1.60 から本年度は 1.93、復習時間は昨年度の 1.67 から本年度は 2.16 に増加しており、増加率ももっとも大きくなっています。

他にも平均値が 0.1 以上変化した項目が複数あります。

Q4「熱心に取り組んでいる」は、平均値が0.27上昇しました。

Q5「欠席率」は、平均値が0.16低下しました。

Q13「教材の見やすさ」は、平均値が0.18上昇しました。

Q17「授業内容への興味」は、平均値が0.15上昇しました。

Q5 の欠席率については、コロナによる外出自粛の影響が大きいと推測されます。Q13 については、対面授業では座席の位置によっては板書やモニターが見にくいという問題がありますが、授業のオンライン化に伴い、教材の見やすさが改善されたものと思われます。予習・復習時間の増加に加えて、これらにより Q4 熱心取り組む学生の増加と、Q17 授業内容への興味の向上につながったと考えられます。

一方、いくつか平均値が減少した項目もあります。

Q6「授業はほぼ定刻通りに実施されましたか」は、平均値が 0.08 低下しました。

Q14「教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか」は、平均値が 0.05 低下しました。

3. 授業の質に関する項目

授業アンケートの質問項目は、大きく 3 つのパートに分かれます。Q1～5 は学生の授業への取り組みに関する項目であり、Q6～15 は授業の質に関する項目、Q16～18 は学生の学修効果に関する項目です。今回のアンケートで向上した項目は、多くが学生の取り組みと学修効果に関する項目です。授業の質に関する項目を見ると、昨年度との変化は小さいですが、なかでも上述の Q6、Q14 は平均値小計が低下し、他の平均値小計は上昇しています。

学年別平均値で見ると、Q13 は全学年で平均値が上昇しましたが、これは教場問題に関するものといえます。Q10「教材の質」は多くの学年で平均値が若干上昇しました。オンライン化に伴い、その教材の質は向上したと捉えられます。

他の項目多く (Q7～9、Q11～12、Q15) は 1 年生の平均値は上昇していますが、2 年生以上の平均値は低下しています。1 年生は今回が初めての授業アンケートですが、2 年生以上は、昨年度の授業と比較して質問に回答していると考えられます。2 年生以上のアンケート結果に注目すると、Q6～15 の授業の質に関する項目の多くの値が低下しており、これらは、今後のオンライン授業の改善に向けて、考慮すべき項目であるといえるでしょう。

一方、上述の Q17 授業内容への興味とならんで Q16 授業理解、Q18 目標達成については全学年とも向上しています。これらの質問は学生の主観的な学修効果を問う項目であり、すくなくとも主観的には学修効果は向上したといえます。

これらの結果から、予習・復習時間の増加と欠席率の減少という学修量の増加と、学修効果の向上が今回のアンケートの最大の特徴ですが、授業の質に関しては課題が多いといえると考えます。

【予習・復習時間と学修効果】

ここでは、予習・復習時間と学修効果の関係についてのクロス集計の結果を紹介します。

なお、予習時間と学修効果の関係は、復習時間と学修効果の関係とほぼ同じ傾向がみられますので、以下で

は昨年からの変化が大きかった復習時間と学修効果の関係について分析結果を紹介しします。予習時間との関係については、表2をご参照ください。

図3

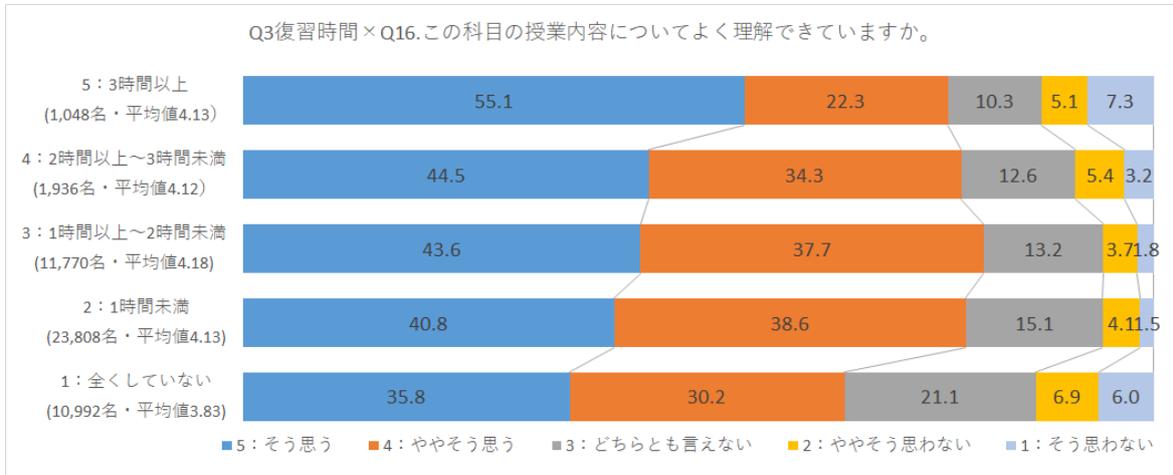


図4

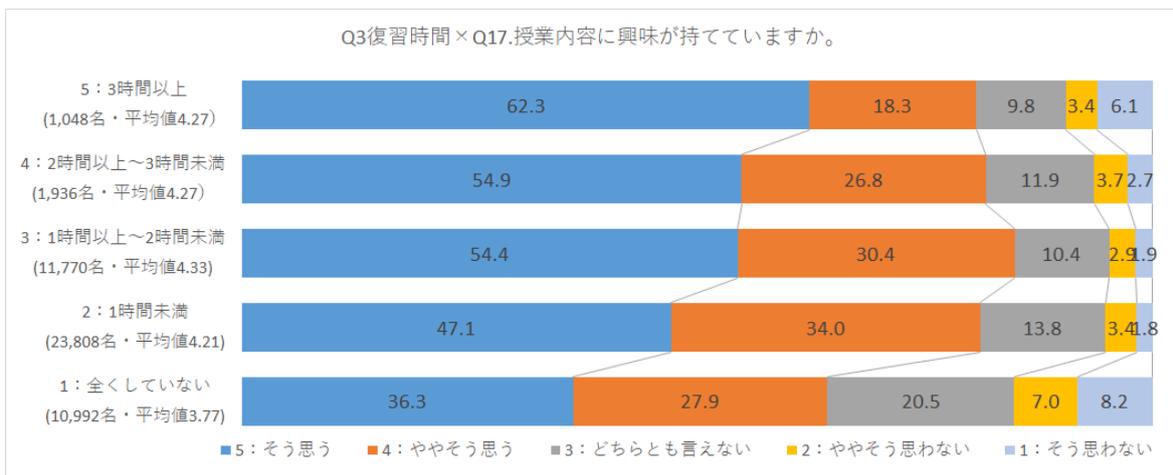


図5

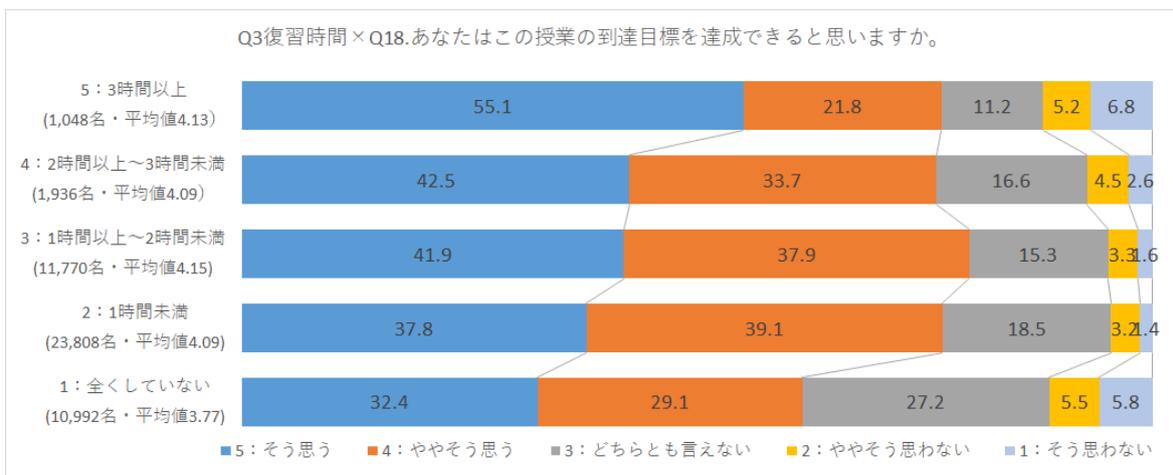


図3～5は、いずれも下記の似た傾向を示しています。

- ・復習時間が増加すると、「5: そう思う」を選択する比率が上昇する。

- ・復習していない学生に比べ、復習している学生は平均値が高いが、復習している学生だけに限ると復習時間が増加するにしたがって平均値が上昇するという傾向はみられるわけではない。
- ・復習していない学生に比べ、復習している学生は「1：そう思わない」を選択する割合は少ないが、復習している学生だけに限ると復習時間が増加するにしたがって「1：そう思わない」を選択する割合は増加する。

このことから、復習の有無は、学修効果（授業内容の理解、授業内容への興味、目標達成）と相関することが分かります。また復習時間の長さや学修効果の大きさには明確な関係は見られませんが、復習時間が長い学生ほど、学修効果の認識が分散しており、自らの学修効果をよく識別していることが分かります。

表2 2020年前期学生による授業アンケートクロス集計 予習時間と学修効果

Q16、17、18の選択肢はいずれも

5：そう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：ややそう思わない 1：そう思わない

(予習時間×授業理解)

Q2.この授業の正規の授業時間外で予習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。	Q16.この科目の授業内容についてよく理解できていますか。					
	5	4	3	2	1	総計
5：3時間以上	502	156	67	32	40	797
4：2時間以上～3時間未満	625	470	164	60	34	1,353
3：1時間以上～2時間未満	4,113	3,216	1,201	283	179	8,992
2：1時間未満	8,900	7,886	2,984	864	367	21,001
1：全くしていない	6,077	6,115	3,384	1,090	745	17,411
総計	20,217	17,843	7,800	2,329	1,365	49,554

(予習時間×興味)

Q2.この授業の正規の授業時間外で予習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。	Q17.授業内容に興味を持っていますか。					
	5	4	3	2	1	総計
5：3時間以上	532	133	70	20	42	797
4：2時間以上～3時間未満	721	383	159	51	39	1,353
3：1時間以上～2時間未満	4,817	2,692	1,062	251	170	8,992
2：1時間未満	10,319	6,840	2,730	688	424	21,001
1：全くしていない	6,933	5,408	3,075	1,011	984	17,411
総計	23,322	15,456	7,096	2,021	1,659	49,554

(予習時間×目標達成)

Q2.この授業の正規の授業時間外で予習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。	Q18.あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。					
	5	4	3	2	1	総計
5：3時間以上	499	139	70	41	48	797
4：2時間以上～3時間未満	597	448	218	61	29	1,353
3：1時間以上～2時間未満	3,884	3,221	1,463	264	160	8,992
2：1時間未満	8,338	8,061	3,602	670	330	21,001
1：全くしていない	5,589	5,968	4,274	861	719	17,411
総計	18,907	17,837	9,627	1,897	1,286	49,554

表3 2020年前期学生による授業アンケートクロス集計 復習時間と学修効果

Q16、17、18の選択肢はいずれも

5：そう思う 4：ややそう思う 3：どちらとも言えない 2：ややそう思わない 1：そう思わない

(復習時間×授業理解)

Q3.この授業の正規の授業時間外で復習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。	Q16.この科目の授業内容についてよく理解できていますか。					
	5	4	3	2	1	総計
5：3時間以上	577	234	108	53	76	1,048
4：2時間以上～3時間未満	862	665	243	104	62	1,936
3：1時間以上～2時間未満	5,134	4,436	1,548	441	211	11,770
2：1時間未満	9,705	9,189	3,586	973	355	23,808
1：全くしていない	3,939	3,319	2,315	758	661	10,992
総計	20,217	17,843	7,800	2,329	1,365	49,554

(復習時間×興味)

Q3.この授業の正規の授業時間外で復習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。	Q17.授業内容に興味を持っていますか。					
	5	4	3	2	1	総計
5：3時間以上	653	192	103	36	64	1,048
4：2時間以上～3時間未満	1,062	519	231	71	53	1,936
3：1時間以上～2時間未満	6,406	3,581	1,224	340	219	11,770
2：1時間未満	11,207	8,092	3,282	810	417	23,808
1：全くしていない	3,994	3,072	2,256	764	906	10,992
総計	23,322	15,456	7,096	2,021	1,659	49,554

(復習時間×目標達成)

Q3.この授業の正規の授業時間外で復習にあてている時間は1週間に何時間くらいですか。	Q18.あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。					
	5	4	3	2	1	総計
5：3時間以上	577	228	117	55	71	1,048
4：2時間以上～3時間未満	823	653	321	88	51	1,936
3：1時間以上～2時間未満	4,935	4,460	1,798	383	194	11,770
2：1時間未満	9,007	9,302	4,406	764	329	23,808
1：全くしていない	3,565	3,194	2,985	607	641	10,992
総計	18,907	17,837	9,627	1,897	1,286	49,554

連載企画：よりよい教育のために

「コロナ禍における試行錯誤」

医療健康科学部准教授 馬込 大貴

コロナ禍により、良くも悪くも大学教育は大きく変化せざるを得なくなった。私の講義科目では、動画をアップロードしておき学生の好きな時間に確認してもらうオンデマンド方式を試している。理解度確認のために毎回確認テストを実施し、1週間後までに提出してもらう。学生からはこれまでの対面授業よりもオンライン授業の方が好評のようであった。理解力の高い学生は2倍速で動画を視聴して早々に確認テストを提出し、更なる自己学習に時間を使っているようである。理解力の低い学生は、分からない部分を理解できるまで繰り返し動画を視聴しているようである。オンデマンド方式のオンライン授業は、ある一定層にレベルを合わせざるを得ない従来の対面授業に比べて、様々なレベルの学生に対応できるためメリットが多いのではないかと考えている。

授業科目は何とかあったが、大変なのは実験科目であった。実験も講義と同様に動画配信のオンデマンド形式を採用したのだが、学生からの評判は非常に悪かった。この要因は2つあると考えている。1つ目は、実験科目は「覚える」だけでなく、「考える」ことが主体となる点だ。医療健康科学部の実験科目では、実際に医療装置に触れて実験を行い、得られた結果について考察する。この「考える」ことに苦手意識を持つ学生が多く、直接装置を触っていないためイメージが湧かず、尚更上手く考えることができないようであった。もう一つの要因は、学生同士で直接話し合うことができない点だ。自分で考えることのできる学生はオンラインでも問題なく、むしろ深く考える時間が取れるためレポートの質は向上したが、自分で考えることの苦手な(これまでではできる学生に教えてもらっていた)学生は、

レポートの質がかなり悪化した。オンライン化によって学生間の差が開いたように感じる。

レポートの評価には、ルーブリックを使用している。ルーブリックについてはご存知の方も多いと思うが、私の場合は評価項目を明示し各評価項目についてどれくらいのレベルに達していればどの評価になるかということ、事前に学生に示しておいた。学生にとっては何が良くて(悪くて)その評価になったか明確になること、教員にとっては採点のブレが少なくなることと採点の手間が減ることがメリットである。ルーブリックを使用してみた個人的な感想であるが、確かに学生は何が良くて何が悪いかが理解できたようだった。しかし、理解したとしてもその学生が自己の改善に役立っているかという話は別である。評価の高い学生は、少しフィードバックコメントをつけるだけでも改善点を見出して努力していた。一方、評価の低い学生は、改善点があったところで改善しようとはしなかった。結局は学生のためになったのか不明である。良い教育とは何なのか、私自身まだまだ精進を重ねる必要がある。コロナ禍における試行錯誤の日々はしばらく続きそうである。



令和2年度新規採用教員オリエンテーション

例年、新年度を迎えるにあたり、新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、駒澤大学の教育方針や授業運営、各種説明を行って参りましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、参加者・登壇者等の健康と安全面を最優先に考えた結果、学内での開催は中止としました。なお、対象の先生120名にオリエンテーション資料を配付または郵送し、関連する手続きなどについては書面にて案内しました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

令和元年度FD推進委員会及び小委員会の活動報告

令和元年（平成31年）

4月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・第1回FD推進委員会及び小委員会を開催

6月

- ・第2回FD推進委員会小委員会を開催
- ・2019年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施
- ・FD NEWSLETTER 第59号を発行

7月

- ・第3回FD推進委員会小委員会を開催
- ・令和元年度第1回FD研修会を実施

9月

- ・FD NEWSLETTER 第60号を発行
- ・令和元年度第2回FD研修会を実施

10月

- ・第4回FD推進委員会小委員会を開催

11月

- ・第2回FD推進委員会を開催
- ・2019年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

- ・令和元年度公開授業の実施（12月17日まで）

12月

- ・第5回FD推進委員会小委員会を開催
- ・第3回FD推進委員会を開催
- ・令和元年度「学生が選ぶベスト・ティーチング賞」授賞式を開催
- ・FD NEWSLETTER 第61号を発行

令和2年

1月

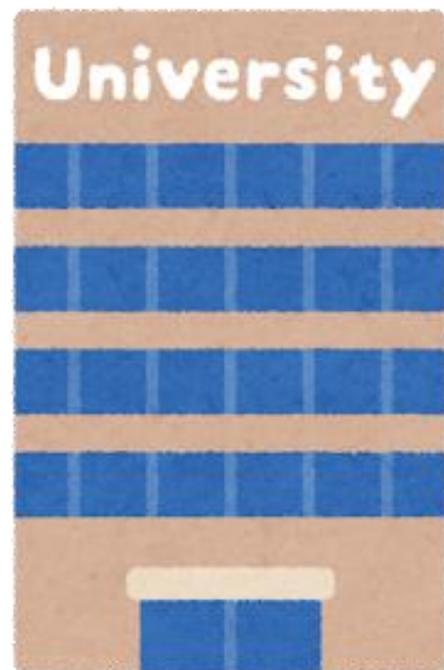
- ・第6回FD推進委員会小委員会を開催

2月

- ・令和元年度第3回FD研修会を実施
- ・第7回FD推進委員会小委員会を開催

3月

- ・第4回FD推進委員会を開催
- ・FD NEWSLETTER 第62号を発行
- ・令和元年度『FD活動報告書』を発行



FD推進委員会の今後の活動予定

- 令和2年度第3回FD推進委員会
令和2年11月6日(金) 16:20～
 - 令和2年度第5回FD推進委員会小委員会
令和2年12月11日(金) 10:40～
 - 令和2年度第4回FD推進委員会
令和2年12月18日(金) 16:20～
- ※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

～2020年度「学生による授業アンケート」 (後期) 実施のお知らせ～

実施期間: 令和2年11月30日(月)～12月12日(土)
対象科目: 全科目対象(集中講義科目、演習科目、
 受講生が10名未満の科目は除く)
 ※C-Learningによるアンケートを実施しています
 (PC、スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用して回答されます)。



編集後記

『FD NEWSLETTER 第63号』をお届けいたします。巻頭言では、FD小委員会委員長の佐々木真先生より、「新たな段階へ」をお示しいただきました。また、連載企画「より良い教育のために」は、FD委員の馬込が、2020年度前期「学生による授業アンケート」の分析結果は同じくFD委員の村松が担当いたしました。皆様、コロナ禍のなかでどのような教育をすべきか模索されている最中ではないかと思えます。このFD NEWSLETTERが、少しでもお役に立てば幸甚に存じます。引き続きFD活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

(馬込大貴・村松幹二)

駒澤大学FD憲章

- 一、私たちは、常に新しい教育方法を模索し、教育活動の質の向上に努めます。
- 一、私たちは、常に自らの教育方法をふりかえることで、教育活動の改善に努めます。
- 一、私たちは、常に教員相互の情報交換をすることで大学全体の教育の質の向上に努めます。
- 一、私たちは、常に学生、または社会からの声を大切にし、教育活動の改善に努めます。
- 一、私たちは、知を人類の資産として未来へ継承し発展させるよう、学生とともに歩むことを誓います。

【タイトル横の写真は、禅研究館前に安置されたお地藏様】

FD NEWSLETTER Oct. 2020 第63号

発行日: 2020年10月30日

発行者: 駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114